

ビスマーク派遣隊、ソロモン派遣隊帰還!! 平成二十一年度遺骨収集完了する!

次派遣	派遣地域	派遣隊員	収集柱数	日数
257	硫黄島 7月1日～7月16日	中平 裕太(社会人) 佐々木優子(社会人)	23柱	16
258	ハバロフスク(応急) 7月27日～8月10日	宇都宮大起(拓殖大学3年)	42柱	15
259	ハバロフスク 8月20日～9月8日	中村 貴洋(青山学院大3年) 佐久間愛生(日本大学3年) 山口 葵(中央大学2年)	31柱	19
260	モンゴル 8月30日～9月15日	川又 裕子(日本大学3年) 山本 沙織(国士舘大学3年)	30柱	16
261	硫黄島 10月4日～10月22日	酒井 徹(社会人) 黒澤 崇(社会人)	4柱	18
262	フィリピン 11月16日～11月26日	佐々木優子(社会人) 榮 友里奈(県立長崎 シーボルト大学3年)	4,320柱	10
263	硫黄島 12月3日～12月18日	野村 友紹(明星大学3年) 松木 健(国士舘大学3年)	11柱	15
264	東部ニューギニア 12月3日～12月17日	磯部 大(社会人) 山本 沙織(国士舘大学3年)	411柱	14
265	硫黄島 2月1日～2月19日	野崎 竜太(社会人) 瀬戸 遼人(京都学園大3年) 内藤 善文(社会人) 森 啓太(拓殖大学4年)	13柱	19
266	沖縄 2月15日～2月24日	学生12名 社会人1名	9柱	9
267	ビスマーク諸島 3月7日～3月18日	田島 輔(社会人)	8柱	11
268	ソロモン諸島 3月9日～3月18日	外山 豊(南山大学2年)	33柱	9
計	12次派遣	延べ35人(学年は参加時)	4,935柱	171



発行所

特定非営利活動法人
JYMA日本青年遺骨収集団
〒102-0076 東京都千代田区五番町2
番町パレス303号室
TEL・FAX
03-6268-9939
URL: <http://www.jyma.org>
e-mail: info@jyma.org
発行人 中村 貴洋
編集人 山口 美朝

平成二十一年度、当法人では、政府厚生労働省ならびに関係諸団体の皆様方の指導・協力のもと、八地域に十二次に亘り、延べ三十三名の青年・学生を送り出し、四九五柱の御遺骨を祖国にお迎えすることができました(沖縄は現

地に納骨)。収集された御遺骨は、厚生労働省にて身元調査が行われ御遺族が判明すれば御遺族の元にお返しし、氏名判明の出来なかった御遺骨は五月に千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納骨されます。

新任のご挨拶

更なる飛躍に向け



JYMA日本青年遺骨収集集団
平成二十二年度学生代表
中村 貴洋
青山学院大学四年(二十二年度)

今年度学生代表を務める事になりました青山学院大学四年の中村貴洋です。昨年度経験した学生副代表としての活動体験を今年は活かしたいと思っております。

さて、今年のJYMAをどう動かしていくのか。森さんと宮崎さんが抜けた穴は非常に大きいものだと感じています。森さんは事務運営を、宮崎さんは多くの派遣に参加し貢献してきましたが、今の私自身にその穴を埋める程の力量はありません。しかしその穴を埋める一つの要点として現JYMAは仲が良く信頼しあえる同期や後輩がいます。
政府派遣を初め、戦史検定等に取り組み始めている中、彼らの協

力無くして実現は無いのはもちろんのことですが、昨年を見ていると一人や二人では抱えきれない問題が発生してきます。そのためにもまず今年度最初の行事として新歓に力を入れ、多くの学生に参加してもらえ工夫をしたいと考えています。というのは、現在のメンバーは戦史に対して興味を示している者が少ないからこそ、改めて戦史に向き合う機会であり、自分達のやり方で新入生達と理解していくことができると思うからです。
私は代表として、こんなに期待感溢れる団体のこれからは楽しみです。今年度は更なる飛躍に繋がる一年にするためにも、御指導御鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

新任のご挨拶

決意新たに



JYMA日本青年遺骨収集集団
平成二十二年度学生副代表
山澤 健太
日本大学四年(二十二年度)

去年度より引き続き学生副代表を務めさせて頂きます。山澤健太です。皆様今年もまたよろしくお願ひします。去年度は事務所移転に伴う新たなスタートの中、事務局執行にあたり戸惑いや不安を感じながらも先輩方の温かい指導と叱咤激励の声を頂いたことでなんとか一年間の任期を終えることが出来ました。特に卒業なさった森学生代表におきましては同学年在籍者がいない中、執行部としての役目を一手に引き受けるその姿勢に心打たれ、後輩としてサポートする役目を果たすべく運営に力入れる決意をしたものでした。

さて、今年度。私たちは戦史検定事業やホームページのリニューアルなど大規模な事業展開を自主

的に行い、全国にその名を知らしめるべく活動展開していきます。私はこの一年が大きな転機になると見据え、新时期団員の増強、迅速な行動力、学生一同の事業展開への活力を高める意識改革を行っていきます。
去年度の活動を越える大きな飛躍を遂げるべき行動を新たにしてみたいですが、我々学生たちの行動に至らぬ点がございましたら、支援者の方々、大先輩方、どうぞ厳しい声で指摘ください。支援者の皆様に喜ばしいご報告が出来ますよう、学生代表中村、団員一同と共に今一度JYMAの活動を再認識し、決意新たに活動の出発としていきます。どうぞ今年一年よろしく申し上げます。

退任のご挨拶

JYMAでの日々を振り返り



JYMA日本青年遺骨収集集団

平成二十一年度学生代表

森 啓 太

拓殖大学四年(二十一年度現在)

私のJYMAでの時間は四年間の大学生活のうち、二年の冬から始まり、本格始動したのは三年の中頃からだったと思います。その時点で残された時間というのは一年と半年でした。限られた時間の中でしなければならぬ事、それは遺骨収集もありますがそれ以前に団があり続け、活動を維持していくという事でした。

本来その様な事は大した事ではありませんが、団の体力の減少に私の経験不足が重なり満足な運営をする事が出来なかったのではなにかと思います。といいますのも私が重点的にすべき事というのは、先代が成し遂げられなかった戦歿者慰霊の新しい場面への挑戦

であつたからです。

現在、マーシャル諸島での遺骨調査、戦史検定の実施を新たな自主事業として展開しております。特に自主調査というものは、先輩方がずっとやりたかったのではないかと推察します。直接の遺児、遺族による慰霊というものから、同じ国民、同じ民族が国難に殉じた先輩への慰霊という根本的な慰霊の形の先駆けとして熟していくものと思います。我々の存在の意義は戦歿者慰霊の精神が代々継承され、新たな青年がどんどん慰霊の場に出てくることであります。そして今、我々が一番に挑まなければならないことは戦歿者遺骨収集の完遂のみならず、戦歿者を追

悼する「慰霊」という行いにおいて、命を捧げた人々と今の平和のことを想うことです。

私の任期中にそれがどれだけ実行できたか省みるところがありますが、これからは新しい事業と共に多くの青年が熱意を持って当たってくれるはずで。万が一、何の役にも立たない場合は見限っていただいて構いません。しかし皆様ご存知の私の先輩方のように一所懸命に当たってくれるはずで。どうかこれからもJYMAを温かく見守っていただけますようお願いいたします。皆様、本当にお世話になりました。

JYMA活動で培ったもの

平成二十一年度役員

宮崎 貴裕

早稲田大学四年



私はJYMAに四年間お世話になりました。活動を行っていく中で様々な困難がありました。戦

友や遺族の皆様、JYMAの先輩、仲間を支えられ活動を続けていくことができました。心よりお礼申し上げます。

私がJYMAの活動で、学んだものは感謝の心です。大東亜戦争で戦われた将兵やそのご家族の皆様に対する感謝は当然のことながら、それ以前に我が国で活躍された先人、戦後日本を導いてきた先の世代の皆様に対する感謝や現在私を取り囲む全ての皆様に対する感謝です。

遺骨収集という活動を通じて、大東亜戦争を見つめ直し、そこから現在の我が国、あるいは私につながる歴史や伝統というものを明確に意識するようになりました。JYMAはこのような機会に巡り合える素晴らしい組織であると思っています。

このたび、私は卒業しますが、今後もJYMAでは戦史検定を始めとする様々な新事業を目下企画中であり、強く後ろ髪を引かれる思いです。後輩諸君の奮闘を期待し、卒業の挨拶としたいと思います。

政府戦歿者遺骨収集事業

第二六七次ビスマーク派遣隊、
第二六八次ソロモン派遣隊帰還!

去る、三月七日から三月十八日の計十一日間の日程でビスマーク諸島、三月九日から三月十八日の計九日間の日程で政府はソロモン諸島に於いて遺骨収集を実施し当法人より各派遣に一名ずつ(計二名)の団員が参加しましたので、ここに報告致します。

◆第二六七次ビスマーク派遣

・派遣隊員

田島 輔(社会人)

政府派遣初参加

・収集柱数 八柱(受領のみ)

・収集地域 ソファナ島

◆第二六八次ソロモン派遣

・派遣隊員

外山 豊(南山大学二年)

政府派遣初参加

・収集柱数 三三柱(二九柱受領)

・収集地域 丸山道(四柱)、

ンゴティ(〇柱)、ボネギ川(三

柱受領)、バラナ村(十一柱受領)、

大使館保管分十五柱受領。

沖繩自主遺骨収集派遣報告文

派遣をつくり出すということ



山口 ゆに葉

(拓殖大学二年) 参加時

今回の沖繩自主派遣は私にとつて二度目の派遣参加だった。参加のきっかけは、昨年、一緒に沖繩で収集を行った山口美朝くんから『一緒に派遣を企画しよう』という誘いがあったからだ。前回の派遣で、まだまだやり残したことからだと感じていた私は、次また沖繩で活動する機会があれば、ぜひ参加したいと思っていたので、『企画する』ということがどういうことなのか、深く考えずに承諾の返事をした。今思えば、私は安請け合いをしてしまったのだ。

それからの準備期間、やるべきことは隊長が全て把握しているから、私は言われたことをこなすだけでよいと勘違いし、自分から動くようなことはしなかった。後からわかったことだが、彼も企画するということに関して、右も左もわからない状態だったらしい。もともと自分から率先して仕事を探すべきだったと後悔したのは言うまでもない。それから、任された仕事についても、毎年行っていることだから、という安心感から後回しにしてしまった部分が多かった。その結果、昨年とは違うところがいくつも出てきて、隊長に迷惑をかけてしまった。

沖繩に着いてからも、反省すべき点は増えるばかりだった。派遣三日目、平和祈念公園内を見学した時には、今派遣隊唯一の三年生である中山亜理沙さんが別件で不在だった隊長に代わり、みんなを案内してくれた。さすがだなあと思う反面、本来なら副隊長である私がやるべきことなのではないか、と自分の役割に対する疑問、やりたいのにできない、気持ちはあっても能力が無いことへのもどかしさを感じた。もし私が昨年の時点で沖繩の戦史や戦跡について勉強し、勉強していたらみんなに沖繩のことをもっと説明できたのに……と、やるせない気持ちになり、その日の晩、前回の沖繩派遣で副隊長を務めた野崎史弥先輩に相談の電話をした。先輩は『隊長が頑張ってくれているなら、副隊長は特に何かしなくても他の隊員と同じでいい。沖繩を見たことのあるゆに葉がいるということである心する人もいるはず』と言ってくれた。その言葉で、肩の力が抜け、私は自分でできることをしよう、と考えるようになった。そして、すぐにその機会はやってきた。怪我をした隊員の付き添いで病院に行くことになったのだ。周りは

『ゆに葉も収集したいだろうから申し訳ない』と言ってくれたが、むしろ私は失礼だが嬉しかった。初めて誰かの役に立てる気がしたからだ。もちろん派遣に参加したからには、一柱でも多くお迎えしたいという思いはあった。しかし、それ以上に初参加の隊員に、昨年私を感じたようにたくさんの方を経験してほしいと考えていたので、そのためなら何でもしたかった。負傷者が出たことは残念なことだったが、この一件があったことで、私は自分の存在意義を多少なりとも感じる事ができた。

しかしその後、また壁にぶつかった。隊長ができない部分を補佐するのが副隊長である私にできることと、そう考えていたのだが、今度は隊長が負傷したのである。私は、代わりを務めることはできないという不安から非常に焦った。幸い、隊長の怪我は動けなくなるほどではなく、隊員一人一人がしっかりといたという事に加え、亜理沙先輩や会計を務めて

くれた山口葵隊員が、みんなをまとめてくれたおかげで、その後の活動も問題なく進んだ。だが、てきぱきと指示を出せる彼女たちと自分を比べて劣等感を感じ、事前に色々と備えておける部分もあつたのではないかと、悔やんでも悔やみきれない思いだつた。

今までの報告は反省文のようになってしまったが、悩みを抱えたことも自らのためになったと思うし、それ以外にも良い点はあつた。昨年よりも充実した意見交換会が行えたように思う。人数が少なく全員の話聞いたというのが良かったし、自身の意見や思うところも前回の経験があつた分、有意義だつた気がする。そして何より、ひとつの派遣を動かし、多くの人を動かすことの大変さを身を持って知ることができた。それは遺骨収集が何だかよくわからない状態で先輩に連れて行ってもらつた前回の派遣ではわからなかつたことだつた。私が今回、沖繩で遺骨収集をはじめとする貴重な体験がで

きたのは、実にたくさんの方のおかげである。それは支援者の方々をはじめ、道具を貸してくださつたり協力をしていただいた沖繩県遺族連合会、収集活動のご指導ご協力をしてくださつた具志堅さんとガマフヤーの皆様や国吉さん、自らの戦争体験を話してくださつた島袋さん、島袋さんを紹介してくださつた小林さん、当法人の理事の方々、OB、OGの方々、現役でいつも一緒にいてくれる学生達、そして共に収集を行った派遣隊のみんな……お世話になつた方の名前を羅列していけばきりが、全ての協力者の方々に對して心から感謝している。本当にありがとうございます。ごさいま



荒崎海岸に散開しての作業

繋ぐために



日本大学二年
古屋 沙知

「遺骨収集」という言葉を聞いたとき、怖いとしか思えなかつた。触るなんてとんでもない、意味がわからないと思つていた。初めはそんな風に思つていた私だったが、この沖繩の遺骨収集派遣に参加して得たものがたくさんあつた。それは予想を超えるほどであつた。

そもそもなぜ私が遺骨収集派遣に参加しようと思つたかという点、それは新しい考えを得るためであつた。将来教師になりたいと思つている私は未来の教え子たちにただ勉強を教える先生ではなく、自分の経験を生徒の知らないことを教えられる先生でありたいと思つている。だから、自分の知らないことである遺骨収集をして

みることにしたのだ。ほんとに最初は興味であった。

沖繩にいる間、毎日戦争のことを考えていた。テレビの戦争特番や学校の授業、本など戦争について接する機会はいくらでもあったが、結局どれも真剣に考えたことはなかったというのに気がついた。ただ怖い、ただ可哀想、ただ悲しい。それくらいにしか考えていなかった。

だが、実際に遺骨収集の作業が始まってみるとその言葉が軽いと感じてしまうようになった。戦時中は今自分たちが使っている怖いよりはるかに怖いし、可哀想、悲しいなんてそんな言葉じゃ収まりきれない程どであったに違いない。

そして、そのような経験をしてくれた方々のおかげで今の私があることに気がつくことができた。以前はなぜ戦争などしたのであるかと思っていたが、もしあの時の戦争がなかったら、もしあの時の戦争に勝っていたら、今私はこうして幸せに暮らすことはできてい

ないだろう。戦争で亡くなられた方々には大変申し訳ないし、御遺族の方々の気持ちを考えることのできていない発言かもしれないが、あの時の尊い犠牲が今につながっていると思うと本当に自分は幸せだと感じる。感謝せずにはいられなくなる。

拝礼の時も目を追うごとに感謝の気持ちが強くなっていくのがわかった。他の隊員の意見を聞いていると自分が考えたこともないような発言をしていて驚き、勉強になったり、同じように感じていたことで安堵したり、時にはそれは違うと言いたくなったりすることもあった。戦争や遺骨収集に対してこれだけ考えたことがあっただろうか。

遺骨収集と教育が繋がることなんてありえないと思っていた。しかし、私はこの遺骨収集派遣で経験したことや意見を本気で生かしたい。ただ未来の生徒たちにこんな人であったことがある、自分はこのことをしていたのだ、など

と話すのではなく、二度と戦争を起さないようにここで得たたくさんものを教育の場で発信していきたい。

今、私の中で遺骨収集と教育が繋がっている。教育は世の中をつくることだ。そして、戦争のない世の中をつくるにはまだ私の知識や経験では全然足りない。御遺族の方々はいったいどのような気持ちで御遺骨が帰ってくるのを待っているのだろうか。早く帰ってきてほしいのだろうか。過去のことでだから見たくはないと思っている方もいるはずだ。遺族会の方々はどうのような気持ちで遺骨収集の行事に参加するのだろうか。一つも残らず御遺骨をお迎えしたいと思っているのだろうか。

二度と戦争をしないための恒例行事として参加する人もいるはずだ。きっと他にもたくさん理由があるはずである。でも私はまだ全然知らない。だから、知りに行かなくてはならない。これが私の中で大きく変わったことだ。

団員の皆さんへ

当法人では3月～11月迄の第2・第4日曜日の午前10時より午後2時迄の4時間、全国戦友会連合会の皆さんと靖国神社社頭広報を行っております。学生、役員にて参加していただけますが、一般の会員・支援者の皆さんも奮ってご参加ください。



社頭広報をする団員

JYMA 主催慰霊祭 卒業生慰労会

靖国神社にて 開催される!

平成二十二年三月二十一日、靖国神社に於いてJYMA主催の慰霊祭が行われた。

式には現役学生を始め、北は山形、南は沖縄からOB、OGの先輩方や日頃よりお世話になっている支援者やご協力を頂いている方々も多く参列された。靖国神社本殿内にて昇殿参拝を行い、その後靖国会館にて卒業生である森、宮崎両卒業生の慰労会を行った。

これから二人は社会人となるが、二人の今後の発展と成長を祈ると共に、先輩達の残したJYMAの意志を我々現役学生が受け継ぎ、世に示してゆきたい所存である。

お二人とも、ご卒業おめでとうございます。

二人の意志



拓殖大学二年
山口 美朝

今まで当たり前のように一緒にいた二名の先輩が、ついに卒業を迎えた。しかし、今でも二人がいなくなるということに実感がわかない。

代表の森先輩は、大学のサークル内で知り合った。当時JYMAどころか大学の右も左もわからない私に、様々なことを教えてくれた。森先輩は私が思っていることからまた違う視点で意見を述べ、私の考える幅を広げてくれた。二十年度の沖縄自主遺骨収集派遣の際、森先輩は隊長を務めた。私はまだ一つ一つのことについて知識が浅はかで、初参加者の隊員に質問をされても曖昧な返答しかできなかつた。しかし森先輩は、自身の思う意見や今のJYMAにつ

いて、今の遺骨収集について丁寧に説明してくれた。宿舎で聞いた森先輩の思いは、今年度の沖縄派遣で受け継ぐことができたと思っている。また、多方面において学を持ち、多くのことを教えていただいた。なんでこの人はこんなことまで知っているのだろうかといつも驚かされていた。今思えば、森先輩の導きなしには、私の今の大学生活はなかつたと言つて過言ではないだろう。

宮崎先輩とは、私の初の派遣であるシベリア抑留死亡者遺骨収集派遣の際にお世話になったのが初対面だつた。そのときは誠実でしっかりした先輩という印象だつたが、よく話すようになってからはとても楽しい方ということを知り、JYMAについてのことから学生生活の楽しみ方まで幅広くご指導いただいた。何かあればすぐに飲み誘ってくれて、相談にのってくれた。私が落ち込んだりしているときも落ち着いた口調でなだめてくれる、いわば兄貴のよう

な存在となつていた。

今私が思う不安は、この二人の先輩方のように自分達は後輩に意志を語り継いでいけるかということだ。お二人にくらべ、私達はまだまだ浅はかだ。

しかし、私達はお二人の意志を受け取った以上、後世に語り継いでいかなければならない。これから私達の活躍を先輩達に見せつけていければと思う。お二人とも、本当にありがとうございました。



卒業生の二人を囲んで

沖縄自主派遣へのご支援 ありがとうございました

『遺烈』118号、119号の紙上にて、本年度の沖縄自主派遣への篤賛助金を一口三千円で募らせていただきましたところ十九名、二団体の方々より御篤志を頂戴致しました。

皆様の温かいお気持ちのお蔭で十分な収集活動を行うことができました。

ここに謹んで事務局、学生一同心より御礼申し上げます。



沖縄自主派遣 篤志賛助者

個人：茨木治人、宇井豊、影山幸雄、鴨尾進、假谷賀津彦、後藤拓美、清水豊、菅原道熙、染田英利、田淵甲太郎、手塚純真、殿岡克子、西山良正、半田博昭、増田修也、松村讓裕、森本浩吉、室田伸一郎、和田章
団体：旧戦友連、経営者漁火会 (敬称略、五十音順)

社頭広報出席者

平成二十二年三月十四日(日)

旧戦友連

石橋聰／赤堀光雄／山田富雄

松下金三郎／鴨尾進／秋山誠治

内藤寿美子／内藤寿美子／大田弘樹

菊地智太

JYMA

赤木衛／宇井豊／水澤敦／森啓太

宇都宮大起／山本沙織／山口ゆに葉

村山かおり／岩井健斗

平成二十二年三月二十八日(日)

旧戦友連

石橋聰／赤堀光雄／松下金三郎

内藤寿美子／山田富雄／鴨尾進

秋山誠治／菊地智太／内藤寿美子

太田弘樹／牛丸美奈子

JYMA

赤木衛／水澤淳／宇都宮大起

山本沙織／山口ゆに葉／佐々木優子

岩井健斗

◇編集後記

★「帰還兵聴取情報を八月をめどに公開する。」長妻昭厚生労働省が会見で明らかにした政府方針は我々の慰霊事業に関する状況を変えて行く足掛かりになるかもしれない。／今年度、我々は戦史検定事業を開催する。若き世代の時代を超えた挑戦である。／万全を期して迎える慰霊事業。しかし我々だけでは規模拡大は出来ぬ。国民の関心を引きつける必要がある。今年度に懸ける学生の真の姿勢が試される時である。(山)

★三月二十一日、卒業していく森先輩、宮崎先輩の慰労会を行った。森先輩は当法人内だけでなく、大学のサークル活動などでも大変お世話になった。宮崎先輩は私が当法人に来てから出会い、楽しむ時は楽しく、しっかりやる時はしっかりという理念も教えていただいた。

先輩達が去るのは本当に悲しいが、これから二人の意志を継ぐべく頑張りたい。(美)